

# 高校向け「新たなせんきょ体験授業」検討PT

## 第2回会議 要点録

日時 令和3年11月26日（金）18時～20時10分  
場所 札幌市役所本庁舎4階 札幌市選挙管理委員会会議室  
出席者 青塚委員、高橋委員、渡邊委員、櫻田委員、柳野委員、佐藤委員（座長）、  
宮腰委員（オブザーバー委員）、元紺谷委員（オブザーバー委員）

### 1 開会

### 2 実施要領案について

資料1に基づき、実施要領案（講義用資料案を除く）について意見交換を行った結果、次のとおりとなった。

#### ア 選挙公報を題材とする授業展開について

投票先を選ぶプロセスを生徒が学ぶに当たって、情報量も限られる選挙公報を題材とすることが果たして適当なのかという意見もあった。しかしながら、公的なものとして選管が発行し、「全ての世帯」に選挙前に必ず届けられる選挙公報については、情報量が不足していても一つの基本的な判断材料。

こうした議論も踏まえ、スタート地点として選挙公報を題材とした上で、実際には更にいろいろなところから情報を得る努力も必要であり、また、情報を見極める力も必要であることを生徒に理解してもらえるよう、授業を展開することを再確認。

#### イ 実際の政党名を明示する授業展開について

この検討プロジェクトの立ち上げは、リアルを追及し、極力現実に即して生徒に投票の疑似体験をしてもらうことにあった。そうした中で、A党、B党と匿名で授業を進めることになれば、このチャレンジングな検討を進める意味が喪失することにもなり兼ねない。

こうした議論を踏まえ、政治的中立性に確保しながら、実際の政党名を明示した一つの授業モデルを構築することを確認。

なお、今後体験授業を広く展開するに当たって、実施したいが政党名を明示することに消極的にならざるを得ない学校があるときには、今回のモデルを基本としつつ、政党名を匿名化するアレンジも検討していく。

#### ウ 政党公約政策比較一覧を活用する授業展開について

早稲田大学マニフェスト研究所作成の「政党公約政策比較一覧」については、各政党の選挙公約などに基づいて、中立的な立場で研究機関として作成しているものであることを踏まえ、投票先を選ぶ判断材料として活用することを確認。

ただ、今回対象とする実際の令和元年参議院選挙での候補政党数が13であるのに対して、マニフェストが無いなどの理由から「政党公約政策比較一覧」では7政党しか掲載されていないことから、過去の選挙ではあるものの、政治的中立性の確保に配慮し、投票先を選ぶ際には選挙公報に掲載されている13の候補政党全てを対象とするよう、授業を展開する。

## エ グループワークの意義について

生徒が実際に投票先を選ぶに当たり、社会の諸課題への関心を広げていくことが大切であり、それを生徒に気付いてもらえるよう、「政党公約政策比較一覧」を活用して意見交換するという、グループワークの意義を再確認。

身近なものから理念的なものまで、問題意識は人それぞれ。そうした中で、例えば、自分以外の方が発言したことを聞くことにより、「そのようにして社会に関心を持つことがあるんだ」「それは自分が生きてきた世界の中だけでは感じられなかった関心の持ち方だ」などと、自分自身の視野が広がり、世界広がっていくということもあるだろうと期待している。

なお、そうした気づきをグループワーク中に書き留められるメモ欄も用意する。

## オ 授業展開の時間配分について

前半の授業では、選挙公報を題材にして現在の自分の位置を確認する「個人ワーク」をスタートにして、選挙の仕組みと投票参加の意義を学ぶ「講義」を挟んで、社会の諸課題への関心を広げる「グループワーク」へと続いていく。

「講義」に対する生徒の理解を高めるためにも、「講義」の時間配分を増やす一方で、「個人ワーク」と「グループワーク」の時間配分を減らし、授業展開の時間配分を見直す。

## カ 体験授業効果の的確な測定について

日頃から社会の諸課題への関心を広げることの大切さや、投票先を選ぶ際の積極的な情報収集とそれらを見極める力の重要性について授業を通じて学んだあと、生徒にどんな気づきが生じたのかを把握することにより、授業効果を的確に測定できるよう、アンケート用紙のうち、一部の設問とその回答欄を改める。

## 3 講義用資料案について

約 12 分間の説明に対して、スライドの情報量が多過ぎるために、生徒が講師の説明を聞いたらいいいのか、スライドの文字を追えばいいのか、混乱してしまう。

説明だけを捉えると、まとまっており、流れとしても十分なので、生徒が耳でも聞いて、目でも追えるよう、スライドの情報量を絞って字を大きくしたり、一枚のスライドを複数枚に分割して一枚当たりの情報量を減らしたりして、説明内容を基準にスライドを全体的に修正する。併せて、行政的な言葉を排除し、平易な言葉に改める。

なお、実際に講義する際には、ときどき生徒への問い掛けを入れると効果的。

## 4 清田高校（モデル校）での実践概要について

12月14日（火）13時15分から15時05分まで、5時間目と6時間目を通して、清田高校第1学年6組の生徒39名を対象に、体験授業を実践する。

後日行う検証のためにもメンバーの参観希望を募るが、参観できない方のためにも、当日の様子を録画し10分間程度の映像記録に編集する予定。

実施に当たっては、事前に対象生徒の保護者向けに協力依頼を兼ねた案内を配布する予定であり、その中で、政治的中立性に配慮することも明記する方向で検討。

## 5 閉会